

まゆだま通信

群馬大学ダイバーシティ推進センター

News Letter

発行
 国立大学法人群馬大学
 ダイバーシティ推進センター

〒371-8510
 群馬県前橋市荒牧町4-2
 TEL: 027-220-7146
 FAX: 027-220-7143
 mail:kyodo-sankaku@jimu.gunma-u.ac.jp
 HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/



2021.7
 vol.26

新学長ご挨拶

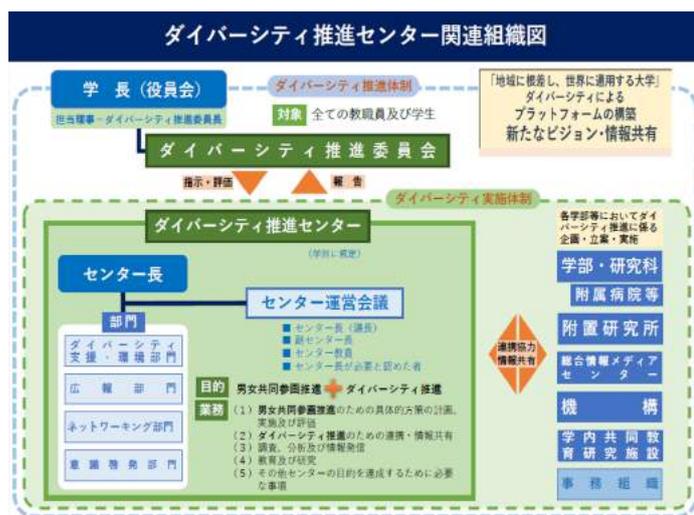
学長
 石崎 泰樹



本年4月より学長を務めております石崎泰樹です。高田邦昭第11代学長のもとで始まり、平塚浩士第12代学長のもとで強力に推進された群馬大学におけるダイバーシティ環境実現を、さらに積極的に進めていきたいと考えております。就任時に提示した「学長ビジョン2021」でも、「ダイバーシティの推進、多様な人材の活用による大学運営の活性化」を重点事項として挙げています。

医学系研究科長として平成29年度に群馬大学昭和キャンパスに男女共同参画推進委員会を設置しました。昭和キャンパスには医学系研究科、保健学研究科、生体調節研究所、医学部附属病院の4部局があります。平成19年に医学部附属病院の院内保育園として「ゆめこの保育園」を開園し、病院の教職員や大学院生の子育て支援を行ってきました。また医療人能力開発センターを中心に出産、育児等で第一線を離れた女性医師の復帰を支援する取り組みを行ってきました。このセンターは平成30年度に地域医療研究・教育センターに統合され、その中の「男女協働キャリア支援部門」としてこれまでの活動を継続しています。このように昭和キャンパスは女性が働きやすい環境の整備という点では他のキャンパスに先駆けて活動して来ており、これまでの取組が功を奏してきましたが、医学系研究科及び医学部附属病院はこの点に関して他の部局に比して見劣りがすることが指摘されてきました。そこで医学系研究科に男女共同参画推進委員会を設置し、医学系研究科における女性研究者・女性医師の現状を的確に把握し、女性教員の採用、上位職への登用を積極的に進めることにより、女性教員の活躍推進を図ることを目指しました。具体的には毎年FDセミナー及び群馬県医師会との共催で「医学生・研修医等をサポートする会」を開催すると共に、科研費セミナー等も開催し、女性研究者の研究活動支援を行ってきました。その効果も次第に現れてきていると思いますが、平成30年夏に実施した「ワーク・ライフ・バランスとキャリアアップに関するアンケート」の調査結果から、育児や介護といったライフイベントに際して、女性のみならず男性教職員にあっても様々な困難に接し不安を感じている現状が明らかになりました。

より良いワーク・ライフ・バランスを追求し、ダイバーシティを推進するためには、全教職員がダイバーシティ推進の意義に関して共通した理解をもつことが重要であると思われます。「ダイバーシティ推進センター」がその原動力となることを願っています。皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



理事(学長特命(男女共同参画・ダイバーシティ))

五十嵐 優子



この度、4月1日付けで学長特命男女共同参画・ダイバーシティ担当理事を拝命いたしました。

私は1981年に群馬県庁に就職し、児童や高齢者福祉、少子化対策などを担当して2年前に定年退職しました。この間、男女雇用機会均等法、育児介護休業法、男女共同参画社会基本法、女性活躍推進法など多くの法整備が進み私も関連業務に携わってきまし

たが、先日「女性の7割が男女平等が『実現していない』『あまり実現していない』と答えている」との世論調査結果が報道され、改めて道半ばであることを思いました。

本学は2013年「男女共同参画推進室」を設置し全学でその取組みを進め、昨年には「ダイバーシティ推進宣言」により、性別、障がい、国籍、性的指向・性自認などより広い視点でのダイバーシティを積極的に推進し、地域や国内外におけるダイバーシティ社会構築の一翼を担うことを表明しています。4月より石崎学長のもと「ダイバーシティ推進委員会」委員長として「ダイバーシティ推進センター」と連携し各学部等との調整や情報共有を図りながら、女性研究者が活躍しやすい環境づくりや女性教職員の採用、登用など男女共同参画を引き続き全学で進めるとともに、すべての学生や教職員のダイバーシティ&インクルージョン意識の醸成に努めダイバーシティ推進に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年度 ダイバーシティ推進センター員名簿

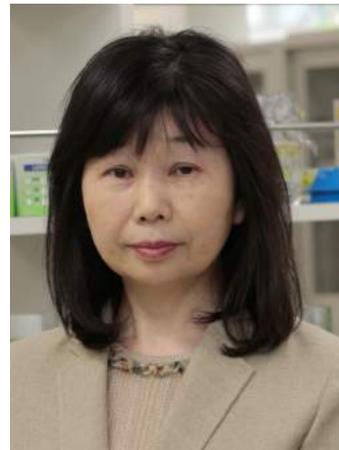
<p>センター長</p>	<p>嶋田 淳子 (保健学研究科 教授)</p>	<p>副センター長</p>	<p>工藤 貴子 (理工学府 教授) 林 はるみ (ダイバーシティ推進センター 教授) 長安 めぐみ (ダイバーシティ推進センター 講師) 尾野 浩康 (総務部総務課長)</p>
<p>ダイバーシティ 支援・環境 部門</p>	<p>◎浅野 素子 (理工学府 教授) 内田 陽子 (保健学研究科 教授) 木村 素子 (共同教育学部 准教授) 新藤 慶 (共同教育学部 准教授) 吉田 由香里 (重粒子線医学推進機構 助教)</p>	<p>意識啓発 部門</p>	<p>◎座間 淑夫 (理工学府 准教授) 末松 美知子 (情報学部 教授) 藤井 正希 (情報学部 准教授) 堀居 拓郎 (生体調節研究所 准教授) 山崎 法子 (共同教育学部 准教授) 羽鳥 麗子 (附属病院地域医療研究・ 教育センター 講師)</p>
<p>広報 部門</p>	<p>◎小和瀬 桂子 (医学系研究科 准教授) 若井 明彦 (理工学府 教授)</p>	<p>ネット ワーキング 部門</p>	<p>◎恩幣 宏美 (保健学研究科 准教授) 工藤 貴子 (理工学府 教授)</p>
<p>事務</p>	<p>鈴木 伸一 (総務部人事労務課長) 市川 雅一 (研究推進部研究推進課長) 飯塚 秀司 (理工学部事務長)</p>	<p>笠井 好之 (学務部教務課長) 渡辺 英雄 (昭和地区事務部総務課長) 溝田 哲也 (総務部総務課専門職員)</p>	

◎は部門長

新センター長ご挨拶

ダイバーシティ推進センター長

嶋田 淳子



今年度、工藤貴子センター長からバトンを受け、ダイバーシティ推進センター長の大役を拝命しました。ダイバーシティ推進センターは2020年度に男女共同参画室から改組され、男女共同参画の推進はもとより、人種や国籍、障がいの有無、多様な性（LGBTQ）などのさまざまな背景をもつ多様な人材を尊重する取り組みを進めています。

現在、2017年度に採択された文部科学省支援事業（まゆだまプラン・アドバンスト、2017-2022）が継続して実施され、本学の男女共同参画推進体制はかなり整備され定着してきました。本学における女性研究者の割合は、これまでの女性研究者支援に係る取組等の結果、増加する傾向にありますが、未だ十分とはいえ、女性研究者の上位職への登用もなかなか進まない状況にあります。女性研究者の増加に引き続き取り組むとともに、女性研究者の研究力向上を図る所存です。また、大学として、多様な視点や発想を取り入れ、研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮することが大学として求められています。多様性を尊重し、SDGsの「誰一人取り残さない」という考え方にに基づき、本学のすべての方がその能力を発揮できる環境づくりを進めたいと考えております。推進センターのメンバー一同、目標達成を目指して尽力してまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



大学幹部・管理職向けFDセミナー 開催

令和3年5月20日、荒牧キャンパスにおいて、大学幹部FDを開催しました。講師には科学技術振興機構 副理事 ダイバーシティ推進室長 渡辺美代子氏をお招きし、「ダイバーシティ推進は何をもたらすのか? - わかっているようで、今一つわからない -」をテーマにお話いただきました。セミナーではダイバーシティ推進は男性も女性もすべての人が幸せに生きる可能性を持つ豊かな社会をもたらす。世界から見た日本、子どもたちの現状、キャリア形成、ステップアップそして、性差を考慮した研究開発など、SDGsのジェンダー平等の話を交えてお話しくさしました。特に、論文や特許の経済的価値は、男女混合チームの価値が高いこと、収入が高いコンピューター科学への女性の進学必要性、アンコンシャスバイアス（無意識のバイアス）を乗り越えるためには、知識だけではなくアクションが必要であること。ジェンダー平等のためには、物事を二項対立で考えるのではなく、見えないものに着目し、人間の多様性を共有することが求められると締めくくられました。

ハイブリット開催であったため、教職員にもセミナーを公開し102名（学長・管理職17名含む）もの参加がありました。



令和3年度ダイバーシティ推進センター共同研究促進事業採択者決定

毎年公募をしている「ダイバーシティ推進センター共同研究促進事業」の令和3年度の採択者が決定しました。今年度も多数の応募があり、「プロジェクトリーダー促進助成【A型】」12件、「研究会企画・提案助成【B型】」6件の応募がありました。その中から厳正な審査の結果、以下の方々が採択されました。

プロジェクトリーダー促進助成【A型】

「自己免疫疾患におけるLINE-1とI型インターフェロン相互制御メカニズムの解明」

栗山 裕子 (医学系研究科皮膚科学 助教)

「タツノオトシゴ由来成分の健康増進効果の評価とその研究基盤の整備」

黒沢 綾 (理工学府分子科学部門 助教)

研究会企画・提案助成【B型】

「錯体化学研究室・触媒化学研究室合同研究会」

岩本 伸司 (理工学府 分子科学部門 准教授)

「患者家族のための在宅ケアの基本～正しく学ぼう感染対策～」

龍城 真衣子 (医学部附属病院地域医療研究・教育センター 助教)

「SOGIの理解促進のためのアンケート調査結果の検討会」

宮崎 博子 (大学教育・学生支援機構健康支援総合センター 講師)

「第1回モデル生物代謝研究会」

茂木 千尋 (生体調節研究所生体情報部門 助教)

託児費用の補助を開始しました

令和3年度入試業務・学会出張における託児等費用の補助の申請を開始しました。

申請には諸条件がありますので、詳しくはダイバーシティ推進センターホームページをご確認ください。



群大 託児補助



ダイバーシティ推進センター 令和3年度スケジュール

- ・7～9月 オープンキャンパス参加
- ・9月 全学懇談会開催(オンライン)
- ・秋頃 令和4年度研究活動支援事業募集開始
- ・11～12月 シンポジウム開催
- ・1月 性の多様性講座開催
- ・3月 研究力アップ講座開催

※現時点の予定となりますので変更や中止の場合はご了承ください